

整理番号	33001
評価対象年度	令和4年度
編成区分	当初

事務事業評価(事前)シート

提出日	令和3年12月7日
事業担当課	土木企画課

《基本情報》

事務事業名	【単独】公園施設整備事業費 長崎市総合運動公園		<input checked="" type="checkbox"/> 新規
			<input type="checkbox"/> 拡大
基本施策	E7 安全・安心で快適な道路・公園をつくります		
2025年度にめざす姿 (なにが、どうなっている)	なにが	どうなっている	
	道路・公園が	安全・安心で快適に利用されている。	
個別施策	E7-2 だれもが安全・安心で快適に利用できる公園をつくります		
2025年度にめざす姿 (なにが、どうなっている)	なにが	どうなっている	
	公園が	安全・安心で快適に利用されている。	

《事業の目的及び現在の取組み概要等》

現状・問題点	<p>長崎市総合運動公園は、長崎市を代表する運動公園として、平成6年から事業に着手し、平成16年に整備が一定完了している。</p> <p>また、平成28年度から令和元年度にかけて、九州新幹線西九州ルートの特設トンネル工事が発生する建設残土を当該公園の未整備区域に受入れ一部造成してきたが、まだ、建設残土の受入れに余裕がある。</p> <p>このような中、今後、市道虹が丘町西町1号線や長崎県において事業化されようとしている長崎南北幹線道路などの工事により建設残土の発生が見込まれている。</p> <p>また、長崎南北幹線道路が浦上川の左岸を高架橋で通過する線形となっており、平和公園の西側地区にある市民総合プールをはじめ複数のスポーツ施設が道路計画に支障をきたし、移転を余儀なくされている。</p>
目標(誰(何)をどのような状態にしたいのか)	<p>公共工事促進のため、長崎市総合運動公園の未整備区域に公共工事により発生する建設残土を受け入れる場所を確保する。</p> <p>建設残土受入れにより造成された土地の有効活用を図る。</p>
課題(どういうことをする必要があるのでか)	<p>長崎市総合運動公園の未整備区域を活用し、公共工事により発生する建設残土を受け入れるとともに、建設残土により造成された土地の活用も視野に入れ、受入れ土量や造成後の有効面積を把握するための造成計画を策定する必要がある。</p>
上記の問題点に対して現在行っている事業の有無	<p><input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 ※有の場合は事業概要を添付(委員会資料等)</p>
当該新規・拡大事業を行うにあたり、縮小・統合・廃止する事業	<p>有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 ※有の場合は事業概要を添付(委員会資料等)</p> <p>新規・拡大事業を行うためには、今までやってきた取組みを検証し、成果や効果が低い事務事業の終了も含めた「選択と集中」に努めることが不可欠です。</p>

《事業の概要》

事業の具体的内容 (対象、事業主体、事業 期間、総事業費、事業 費内訳等記載)	長崎市総合運動公園の西側地区において、平和公園のスポーツ施設再配置に伴うス ポーツ施設の移転先としての活用を念頭に、有効面積を把握し造成計画を策定するた めの測量設計を行うもの。 【事業期間】令和4年度 【総事業費】20,000千円 【R4事業内容】造成に係る測量・設計 20,000千円 ・UAVレーザー測量 ・造成設計(造成計画平面図、縦横断面図の作成等) など						
業務量の増減	189時間の増						
市民等の参画と 協働のまちづくり (取組みに☑をし、 その内容を記載)	<input type="checkbox"/> 情報共有 <input type="checkbox"/> 参画 <input type="checkbox"/> 協働						
事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度 <input type="checkbox"/> 単年度繰り返し <input type="checkbox"/> 期間限定 (年度～ 年度)						
予算額		金額(千円)	国	県	地方債	その他	一般財源
	当年度	20,000			15,000		5,000
	総額	20,000			15,000		5,000
	財源名称						
成果 (活動) 指標	指標(単位)	事業進捗率(事業費ベース)					
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
	目標値	100.0%					
	成果指標及び 目標値の説明	事業の進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事業費累計の割合を 事業進捗率とし、成果指標とした。					

評価結果

(1)今後の事業の方向性と理由

<input checked="" type="checkbox"/> 採択	<input checked="" type="checkbox"/> 所管案のとおり	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善	<input type="checkbox"/> 事業規模拡大	<input type="checkbox"/> 事業規模縮小
<input type="checkbox"/> 不採択	<input type="checkbox"/> 事業統廃合	<input type="checkbox"/> その他		
<input type="checkbox"/> 一部不採択	<input type="checkbox"/> 企画不十分			

(2) 評価会議における指摘事項

今後、長崎南北幹線道路などの工事により発生が見込まれる建設残土の受入れ場所を確保し、また、平和公園のスポーツ施設の移転先としての活用を検討するため、総合運動公園の西側地区において、有効面積を把握し、造成計画を策定するための測量設計を行うものである。

公共工事の促進のため、建設残土の受入れ場所を確保するほか、その受け入れにより造成される土地の有効活用を図ることにつながることから、事業の実施は適当である。